

令和6年度 鶴岡市子ども読書活動推進委員会 会議録概要

○日 時 令和6年7月23日(火) 午前10時30分～

○会 場 櫛引庁舎 教育研修室

○次 第

1. 開会
2. 教育長あいさつ
3. 報告・協議
 - (1) 第2次計画経過について
 - ・計画の【策定背景と概要】について
 - ・計画取り組みの実施状況について
 - ・【数値目標】について
 - ・第3次計画に向けた課題について
 - (2) 第3次鶴岡市子ども読書活動推進計画について
 - ・第2次計画の期間延長について
 - ・第3次計画策定までのスケジュール
 - (3) その他
4. その他
5. 閉会

○出席委員

渡邊敦委員、三浦洋介委員、粕谷温子委員、佐藤大吾委員
兼子由香委員、高田美佳委員、丹生直子委員

○欠席委員

井上裕子委員、谷江るみ委員

○市側出席職員

教育長 布川敦、教育部長 永壽祥司、子育て推進課長 成沢真紀、
健康課長 佐藤清一、学校教育課長 今野新一、社会教育課長 沼沢紀恵、
図書館長 五十嵐恭子、子育て推進課主査 進藤夕子、健康課保健師 押野明純、かたばみ
保育園主任 松田ルミ子、学校教育課指導主事 守岡太郎、
社会教育課社会教育係長 五十嵐芳孝、図書館主事 成沢亜衣

○公開・非公開の別 公開

○傍聴者の人数 0人

○会議内容

1 開 会 (部 長)

2 教育長あいさつ

3 報告・協議

(1) 第2次計画経過について 事務局説明

- ・計画の【策定背景と概要】 について 資料1
- ・計画取り組みの実施状況について 資料2
- ・【数値目標】について 資料3
- ・第3次計画に向けた課題について 資料4

(2) 第3次鶴岡市子ども読書活動推進計画について 資料5 事務局説明

- ・第2次計画の期間延長について
- ・第3次計画策定までのスケジュール

(3) その他

【質疑・意見】

(副会長)

コロナを挟んだものの、昨年から給食担当職員が、図書館に関わる時間が長くなる等、環境がとても良くなっている。図書館は場所があるだけではなかなか機能しにくく、人がいることでまた子供たちも安心して借りに行き、本の場所を聞くこともできる。

数値目標について、割と高い目標を掲げているが、学校現場では本をたくさん借りることよりも、借りた本をしっかりと読みきれるような子どもにしていきたいと考えている。その点で、不読率というものは、借りる冊数より、どのくらい本を読んでいるのか、そこを調査しようとしていてすごくいいことだと思う。

(学校教育課長)

図書館に関わる職員の勤務時間を1時間延長した効果として、お話いただいたことに繋がってきていると思う。今後も現場の声を聞きながら、対応していくことに努めていきたい。

(会長)

学校の声を行政で受けとめ、そして反映されることは大変ありがたく思っている。

(委員)

本校の図書館は、学習センターと名称をつけおり、生徒が集まってくる学校の中心にあり、本が常に視界に入る場所にあるが、高校生が一生懸命読書しているかという点では厳しい状況がある。ただ、情報を得る手段としては、少なからず本に触れているのではないかと思う。生徒にとっては、図書館は居場所になる場所だということで、高校現場でも、活用していきながら、生徒が行きたくなるようなセンターを作っていきたいなと思っている。

(会長)

高校の学習センターは、本を借りる、返すだけでなく学びの中核となっているという点で、新図書館整備に向けて高校の取組から学んだり、逆に市立図書館から情報提供を行っていくというような繋がりが一層できてくると、鶴岡らしい図書館ができていくように思う。

(委員)

家庭によっては大人が子供の読書の機会を勝手に奪っているというところがあり、大変問題であると感じている。その辺りへのアプローチができたらと思っている。計画の基本方針にもあるように、子どもだけでなく大人も読書を楽しめるような取り組みをしていくことが大事だと感じている。

フリースクールでは、朝読書の時間を取っているため、毎朝読むことが習慣にできている。市立図書館の団体貸出も活用しながら、本に触れる機会を提供し続けていきたい。

(委員)

学校では、各科目の中で、図書館と年間のシラバスや授業計画をうまく練り合わせて、図書館の活用に繋げることや、学校の入口に先生のおすすめの本などを動画で載せて紹介する等の活動を行ったことがあるが、本は長期休みでないとなかなか借りないという状況だった。

図書館の利用促進には、他自治体の図書館を見ていると、カフェのような雰囲気や飲み物が飲めるスペースや、快適な椅子の設置等の居心地の良さが求められるように感じている。

(委員)

読み聞かせの際、子どもの反応は二極化しており集中して聞くことのできる子と、全く反応のない子がいる。また、同じ家庭の中で育った兄弟であっても、読書をする子どもとしない子どもに分かれることもある。おすすめ本の一覧を手にとるだけでは読むきっかけにはなりづらく、誰かが本を手渡ししてあげることや、すぐにその本が手に取れるようにすることで、あまり読書をしていない子どもにも読む環境を作り出せるのではないかなと思う。

親が本好きの場合、子どもに読み聞かせをしたり、本を手渡す機会が多くなるように思うので、今本が好きな子どもを増やすことは、将来のための種まきになるのではないかな。

(委員)

小中学校については、学校の中で、朝読書の時間とか集団読書の時間を確保すれば不読率はゼロになる。ただその子どもたちが高校生、それから大人になって市立図書館に行くか行かないかというところに注目する必要がある。

また、漫画本も含め本を読むこと自体が面倒で、自分の興味のあることだけを見ることができる動画視聴ばかりしている子どもが多いことに危機感を感じている。

図書館の最大の魅力は、手に取って面白くなければ中断し、別の本を借りなおすことができることだと思っている。若い親世代もそういう認識を持つようになれば、親も子どもたちも娯楽として、本を手にとるようになっていくのではないかなと思う。

(会長)

読み聞かせでの子どもたちの反応の話があったが、保育園の現場の状況について何かあればお願いしたい。

(かたばみ保育園)

保育園も毎日のように読み聞かせを行っているが、実際個人差はある。各部屋に絵本の本棚を設置していて、毎日の送迎の際保護者の方も手に取って一緒に見ることができるようになっている。コロナ渦は中止していたが、現在は絵本の貸し出しも行っている。しかし、以前よりも借りる人数は減っているように感じる。子どもたちが絵本に触れる機会をなるべく多く作っていきたい。

(会長)

小さい頃からの取組を考えると、鶴岡市が取り組んでいるブックスタート事業が非常に大切であると感じる。

(委員)

ブックスタート事業は、実施していない自治体もあるが、実際に図書館に行ってみたくなるきっかけとなるような素晴らしい取り組みだと思う。

(委員)

中学校での朝読書の時間を毎日 20 分とっていたところを、部活動や職員の働き方改革のため 5 分に短縮し 1 年間実施した。朝読書の時間は 1 週間あたり 100 分から 25 分と大きく減少したが、年間の貸し出し冊数を調べたところ、平均冊数は 2 冊の減少にとどまった。このことから、読むきっかけづくりが非常に重要であると感じている。

(会長)

きっかけづくりとしては、図書館でナイトツアーというイベントをしているが、その時に親子で貸し出しはしているのか。

(図書館長)

昨年は大変好評で、閉館後の開催のためカウンターで実際に貸出体験をしていただいている。きっかけの一つとなっていると感じている。

(会長)

学校現場、保育現場、社会教育現場等の意見をもらいながら、この第三次の数値目標の部分をさらに吟味していければと思う。

(社会教育課長)

それぞれの課が様々な方法で、本に親しむ機会の提供をしている。今後も、子どもたちに本を好きになってもらえるような発信をしていきたいと思っている。特に社会教育課では、地域子育て講演会や、各学校での PTA 関係での講演会や講座等の支援を行っているため、子どもの読書活動の現状も含めて、講座を開催する側として読書が大事だということをお伝えしていきたい。

(学校教育課長)

学校現場においては、図書館の本のみならず、毎日の教材を読む、これが読むということに繋がってくると思う。ただ、本を読むこと自体が目的ではなく、その先に何があるのか、何のために読書をさせるのか、どんな資質能力を育てるためにその読書に取り組ませるのかということを、再確認することが必要だと感じている。